

「働き方改革通信：Smile」は、「先生の Happy が子どもの笑顔をつくる」を取組姿勢とした「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」の進捗（達成目標の現状等）や各学校での取組を共有し、更なる取組の推進・充実につなげるために発行しています。

Topic

働き方改革を支える！ 横浜市教育委員会の取組

①-1

"ケア"と"シェア" 教職員版フレックスタイムの試行


戦略1-(3)-② P.18


9月から「教職員版フレックスタイム制度」の試行実施が始まりました。選定 49 校で 3 か月間の実施となります。試行概要とこの制度を活用している方が 4 名いる東戸塚小学校の様子をお伝えします。

**試
行
概
要**

- 勤務時間** 「7:15~15:45」から「10:00~18:30」の勤務まで 15 分刻みから選択。
- 利用回数** 月 5 回まで。ただし「子育て・介護」を利用要件とし、「8:00~16:30」「8:15~16:45」「8:30~17:00」「8:45~17:15」「9:00~17:30」の勤務の場合は月 10 回まで。
- 利用要件** 「子育て」「介護」「通院」「自己啓発」の 4 項目。学校運営に支障が生じない範囲で利用可能。
※「子育て」は小学校 6 年生以下の子を養育、「自己啓発」は大学院等への通学及びハマ・アップ利用に限る

**東
戸
塚
小
の
様
子**

 **「心が軽くなりました！」**
この制度の価値が、この一言に濃縮されています。制度がライフとワークの好循環を生み出します。

 **「応援したくなります！」**
普段の熱心な仕事ぶりや育児を鑑みた校長先生の温かい言葉です。この制度の取得・活用には、校長先生や周囲の理解とサポートが欠かせないようです。

フレックスを取ってみて…試行者の声 （東戸塚小：勤務時間の割振り）
8:15~16:45

A 先生 (1年担任)	火 水 木 8:30~17:00	今回、同じ学年で2人取るということで、不安があったのは事実です。校長先生からの声かけや、他の先生方の協力もあって取得することができています。
B 先生 (1年担任)	火 木 金 8:00~16:30	学年は協力的なので取りやすい状況にあるのですが、9月は前期末ということで、16時30分に学校を出ることはできず、結果として、フレックスを1度も取得することができませんでした。
C 先生 (個別級担任)	月 火 水 木 金 9:00~17:30 <small>2週間で月の上限10回取得</small>	フレックスを取得することに対し、まだ「ためらい」はあります。でも、保護者の理解や同僚の協力もあって取得することができています。心が軽く感じられます。
D さん (学校事務)	月 火 水 8:45~17:15	事務職員が2人体制だから取りやすかったのは事実です。小学生の登校を見届けてから保育園に子どもを預けることができました。子育て中の親にとって、この制度は本当に助かります。

Topic

働き方改革を支える！ 横浜市教育委員会の取組



①-2

初の試み！ パパ・ママCafe

戦略1-(3) NEW

9月、現在、産休・育休を取得されている方で来年度復帰を考えている先生方を対象に懇談会を開きました。「仕事も子育ても大切にしたい！」と考えている先生方ですが、職場復帰には様々な不安を抱えています。そんなニーズに寄り添う新たな情報交換の場となりました。

育休取得者の先輩から

 **「無駄なことは一つもない！」**
 **「"わたし"の時間を大切に！」**

「復帰の時期や担任を持つか持たないか、育短を取るか取らないか等々、多くの不安があると思いますが、ご自身の判断、その気持ちを大切にしてください。」
「自分の子どもに負担をかける時もありますが、つくづく私を助けるために生まれてきてくれたと感じます。子育てを通して見えてくるものも多いです。」



パパ・ママCafeの様子 (31名参加)

久しぶりに「教員感」を味わいました。懐かしいです。育休中は、こうして人前で話す機会が少なかったのです。

不安だったけど、自分の家族だけではないことが分かりました。

育休を取っている妻と同じ悩みを、みんなもっていることが分かりました。妻が復帰したら、自分もできることをやっていきたいです。

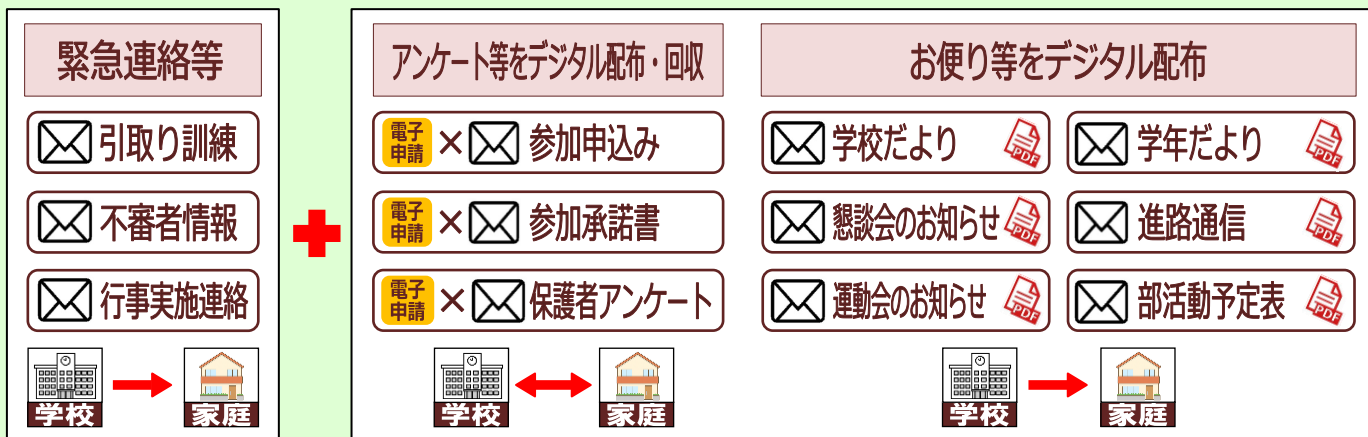
復帰の不安もあるし、学校にいるとなかなか時間をつくることができなかったので、復帰したときに活かせるスキルアップ(英会話)を行っています。

 **本市の産育休取得者数 909人** 男性 9人 女性 900人 (H30.9.1現在)

参加された先生方の不安の多くは、「子どもを預けることができるか」「仕事と家庭の両立はできるか」「職場に迷惑をかけてしまうのではないか」などでした。復帰した先生方、職場、そしてご家族にとっても Happy につながる「未来志向の働き方」を一緒に考えていきたいものです。

「働き方改革通信 No4 (7月号)」で紹介した“電子申請システム”を活用した取組が広がりを見せてきています。これまで紙で行っていた保護者アンケートや各種申込みをデジタルで行うことで集計作業などが効率化することができます。このシステムの活用を未来志向で考えてみると、「電子申請システム」と「メール配信」を通した、新たな学校と家庭との連絡の在り方が見えてきます。

これから ~緊急連絡+α~



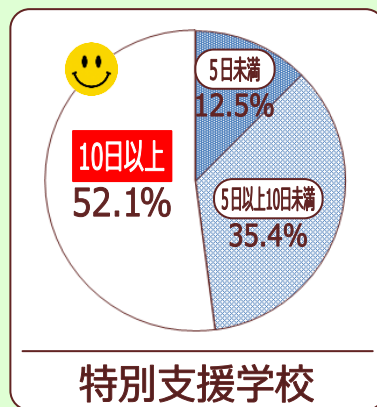
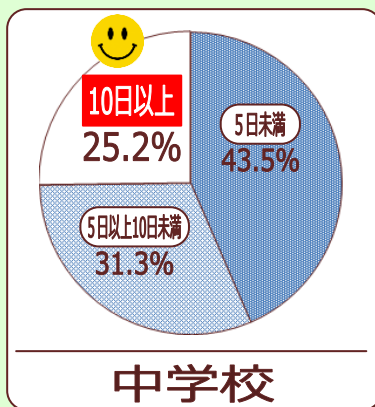
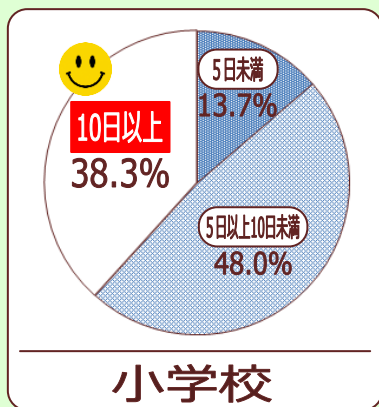
こんな変化が



「メール配信の活用未来形」の実現へ ⇒ **Step① 2019** アンケート等をメールで配信！ **Step② 2020** お便り等をメールで配布！

今年度も半分が過ぎました。「教職員の働き方改革プラン」の達成目標の一つ「年休取得日数：全員 10 日以上」（9月 30 日時点）の状況をお伝えします。この半年間の年休取得日数の“平均”は、1 人当たり 8.4 日。「教職員の働き方改革プラン」の達成目標にある“全員 10 日以上”、そしてこの“8.4 日”に照らし、ご自身の年休取得状況を考えてみてください。

😊 年休10日以上取得者の割合 😊 **35.2%**



(1) 「教職員の働き方改革プラン」達成目標との比較・推移 (平成30年10月5日時点)

項目	目標	平成30年9月実績			
		平均	小学校	中学校	特別支援学校
時間外勤務月80時間超の教職員の割合	0%	18.2% 前月比 +16.7	9.6% 前月比 +9.5	39.6% 前月比 +34.8	1.2% 前月比 +1.2
19時までに退勤する教職員の割合	70%以上	63.3% 前月比 -29.6	59.8% 前月比 -34.1	65.9% 前月比 -24.0	85.0% 前月比 -12.2

※退勤管理を導入した小・中・義務・特支の教員について、ICカード等による記録から機械的に算出した集計結果。(以下、同様)



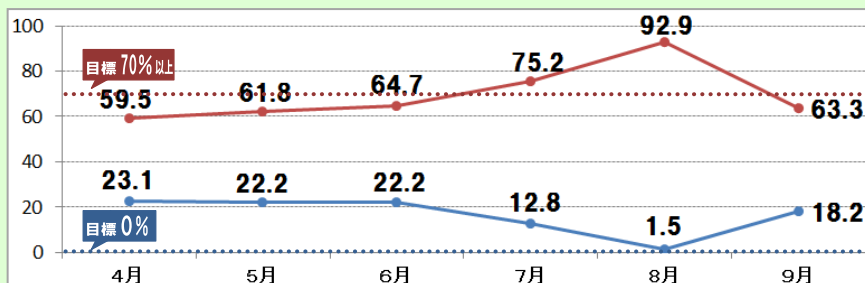
8月と比べてのこの値は、想定内である一方で、前期末や運動会等の行事もあり、9月は年間でも多忙な月の一つですが、夏休み前の6月とを比べると比較的良好な結果となりました。

達成目標に対する現状値

年間の繁忙状況が客観的な数値となって見え始めてきています。引き続き分析を進めていきます。

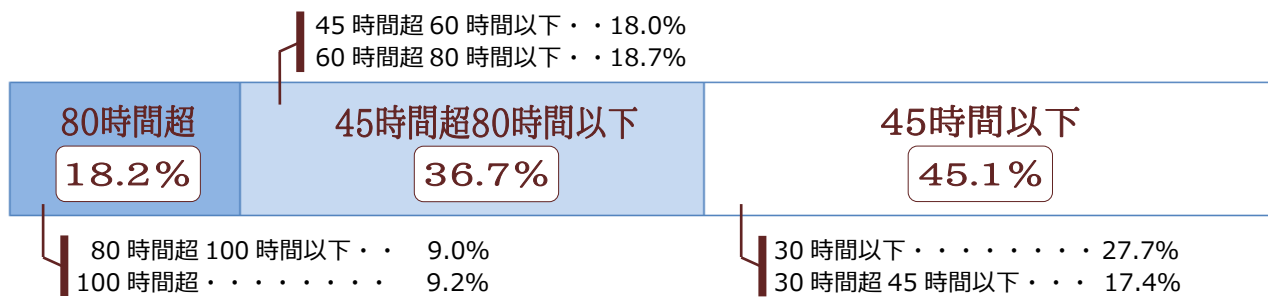
青線 時間外勤務月80時間超の教職員の割合

赤線 19時までに退勤する教職員の割合



(2) 時間外勤務 (平成30年9月) の詳細

◇時間外勤務の割合 (平均)



◇時間外勤務の割合 (校種別割合)

月あたり時間外勤務	100時間超	80時間超100時間以下	小計 (80時間超)	60時間超80時間以下	45時間超60時間以下	小計 (45時間以下)	30時間超45時間以下	30時間以下
小学校	2.1%	7.5%	9.6%	22.1%	21.8%	46.4%	19.6%	26.7%
中学校	25.8%	13.8%	39.6%	15.2%	11.6%	33.6%	12.3%	21.3%
特別支援学校	0.1%	1.1%	1.2%	2.5%	10.2%	86.1%	19.0%	67.1%
平均	9.2%	9.0%	18.2%	18.7%	18.0%	45.1%	17.4%	27.7%



10月も複数の区で「働き方」をテーマに学校経営推進会議が開かれています。この場での好事例や困り感の共有・話し合いを契機に、取組が後押しされています。また、「学校提案型 働き方改革推進校」(19校)への訪問ヒアリングも順次行っています。随時、各取組の様子をお伝えしていきます。

※本資料の数値については、項目ごとに四捨五入により端数処理を行っているため、合計と内訳の和とが一致しない場合があります。